

第40回 国際福祉機器展 H.C.R.2013

●自動車メーカー別福祉車両の呼称●

スズキ・・・ウィズシリーズ
 ダイハツ・・・フレンドシップ
 トヨタ・・・ウェルキャブ
 日産・・・ライフケアビークルシリーズ
 富士重工・・・トランスケア
 ホンダ・・・福祉車両
 マツダ・・・ウェルフェア
 三菱・・・ハーティールン

9月18～20日の3日間、東京ビッグサイトでアジア最大規模の福祉機器の総合展示会「第40回国際福祉機器展 H.C.R.2013」が開催された。出展数は昨年よりも1カ国、37社増加し16カ国、585社・団体（うち海外59社）がブース展開し、最新の福祉機器の情報提供と福祉・介護・リハビリに関連する動向を紹介した。来場者数では約1万3千人増加し、3日間で12万1044人と会場は大変な賑わいを見せた。

会場では車いすやリフトなどの移動機器から、ベッド、入浴・トイレ用品、高齢者・障害者向けに工夫された衣類や食品、介護予防機器、介護ロボットまで、あらゆる種類の福祉機器・用具が並んだ。

自動車メーカーからは主に最新の福祉車両・介護車両が展示された。スズキは今年中に発売を予定している「新型スペーシア 車いす移動車」の先行展示を行った。同車はスペーシアの基本性能を活かしながら、快適な空間を確保し、車いすのスムーズな乗り降りを可能にした福祉車両で、車いすを乗せない場合は、折りたたみ式の後席シートを出



スズキ「スペーシア」
車いす移動車

すことで、4人乗車が可能となった。また後席左側ワンアクションパワースライドドアにより、普段の使い勝手にも配慮した。その他エブリイやワゴンR等のウィズシリーズ、モータチャエアやセニアカーを展示した。

ダイハツはハイゼットやアトレーのスローパー（車いす移動車）、アトレーやムーヴのシートリフト車（昇降シート車）を展示。またムーヴでは衝突回避支援システム「スマートアシスト」の搭載もPRされた。また実車の展示は無かったもののパネルにて新型タントのスローパーとウェルカムシートの登場が告知され



ダイハツ「ムーヴ」
フロントシートリフト

た。

トヨタは8月末にマイナーチェンジし発売された「SAI 助手席リフトアップシート車」やHV車を追加した「カローラフィールダー 助手席回転スライドシート車」など、充実したHV車でのラインアップで来場者を迎えた。また昨年展示されていたが、同社のフレンドマチック取付専用車としてアクアが展示され、同車のルーフに搭載されたウエルキャリーに関心が寄せられた。

日産は今年6月に発売した新型軽自動車の昇降シート車「日産デイズ



トヨタ「アクア」
ウエルキャリーの実演

アンシヤンテ」や「NV350 キャラバン チェアキャブ」、「セレナ チェアキャブ スロープタイプ」、「セレナ チェアキャブ リフトタイプ」の計5台を出展した。

そのため、「出かけることが、好きになる。」をテーマとし、運転補助装置と先進運転支援システム「アイサイト（ver. 2）」を搭載した2台でブースを展開した。

富士重工は「XV HYBRID 2・0i・L Eyesight 運転補助装置付」と「フォレスター 2・0i・S Eyesight ウィングシート（リフトタイプ） 運転補助装置付」を出展。出かける喜びを提供

ホンダは9月に発売を開始した新型「フィット ハイブリッド」の助手席回転シート車や、軽乗用車「NBOX+」の車いす仕様車をはじめとする介護車両などを出展した。

クシシステム」などを展示。さらに加齢などにより脚力が低下した人の歩行をサポートするために研究開発している「歩行アシスト」を参考出展した。



日産「デイズ アンシヤンテ」
助手席スライドアップシート



富士重工「XV ハイブリッド」
運転補助装置装着車



マツダ「プレマシー」
全自動助手席リフトアップシート